

寔報

消息——監事室——向上會——編輯室

拜啓 新春早々は賀狀に預り有難ふ且つ學報發行の御通知もありこんなやくざ者でも卒業生だと思ひ年々の御挨拶痛み入り居ります。就ては母校を追憶する爲めに學報が希望ですが僅か五拾錢の送金に爲替を組んで書留で御届けるなんて大そうな事甚だ迷惑に感じます。僕丈けではありませんまい。こんな感をしてゐるのは他に澤山ある様に承つております。何とかよい手軽な方法はないでせうか。年々歳々の事ですからそして卒業生と母校と連絡の爲め凡ての卒業生へ學報が同窓會誌と云ふ意味に於て分配さるゝよい方法がないものかと思ひます。

さてお話は變りますが僕は去年十一月より東京帝國大學史料編纂掛へ勤務する事となり毎日辻博士の助手をやつてゐます。其後僕の生活状態が一變し居所の移動もありますので御通知申し上げます。諸君の御健在を祈ります。恐々謹言

東京市神田區伸襦樂町

九番地 岸本正人方

野村 常(重)(玄恒)

啓上 時下新春之候に御座候處貴校益々御隆盛の趣き何より嬉ばしく存じ申し候。

却説 毎度御叮嚀に御芳景を泰ふし誠に恐縮致し候。多年御世話に相成り候母校を去つてより當地開山大師の古道場を墓ひ居り候て早や七年の春を迎へ申候も未だ爲す無きを遺憾に思ひ居り候。色々の都合にて今日迄御無音に打ち過ぎ候事を今更慚謝致し候。此の上乍ら諸兄の御勇健と母校いや増しに隆盛ならん事を祈り申し候。頓首。

正銀僧堂内

金石 禪聰

明治の初年臨濟宗各派並に黃蘗宗の聯合によつて其端を發した宗門の教育は、星霜の推移と共にいつしか妙心寺派の單獨經營となり、大衆寮、大教授、普通學林高等部、花園學林高等部、花園學院高等部を経て今の臨濟宗大學となつた。經營の主は各派の聯合から一派の經營に變つたり、名稱も次から次へと色々に變つて來たけれ共、臨濟宗唯一の高等専門の教育機關であると云ふ點は依然として變らないのである。名稱の變化に伴つて内容にも多少の變化はあつたが、其の變化たるや寧ろ進化と稱すべきで、當然變化せざるを得ざる變化でありました。斯う云ふ意味の變化が又本學の内容の上に加へられて、此度學年を一年延長して五年制とし大に内容の充實を計ることになりました。これ共臨濟宗隨一の學府であると云ふ點は少しも變りません。變りませんと云ふよりも寧ろ宗門の色彩が一層濃厚になつたと云つた方が適當であります。四年間學修し來つた禪學研究の

結果を最後の一年で論文に纏めると云ふことになつたのです。又一面には支那哲學並に支那文學の研究時間を増加することにいたしました。是は勿論禪宗とは因縁の深い學問でありまして舊に禪僧と親しみがある云ふばかりでなく、宗門の研究には必要缺くべからざる學科であり、其の上文部省の檢定を受けやうとする上に多大の便宜を興へやうとする點も考慮に入れてあります。文檢と云へば修身科の如きも適當の素養を得らるゝやう改善されてあります。又早く學校教育を終へて禪堂に入りたといと云ふ希望者のためには第三學年を終了さへすれば従前と同様の資格を以て僧堂に進むことが出来るやうになりました。つまり一年でも長く學究を續けたいと云ふ篤學者のためには五年制となり、一年でも早く僧堂に進みたいと云ふ修行者のためには三年制となつたわけで、つまり双方に都合の良い道が開かれることになつたのであります。斯くして臨濟宗大學の特色が益々著しくなつて行くと云ふことを信ずると同時に、本學の將來が愈々進歩發展せんことを希望して已みません。

職員移動 明晰の頭腦を以て敏捷に事務に方られた會監土岐明道氏は恩師の病氣のために遂に四月早く職を退かれることになりました。後任としては本學の前身花園學院高等部卒業の渡邊拙堂氏を迎へることになりました。氏は曾て朝鮮に開教使として相當の經驗を持たるゝ上に花中の會監として教育の經驗もありますので眞に適材適所申すべきであります。教授として諄々捲まず主監として孜々怠らず過去五年間猶一日の如く本學の

ために盡粹された温厚の人金仙宗諱氏は自坊の都合にて九月辭任さるゝの已むなきに至りましたので、本學の教授手島文倉氏が後任として就職されました。氏は優秀の成績を以て京大を卒業し特に恩賜賞を拜領された本宗唯一の新進佛教學者でありまして、既に多年本學に教鞭を執らるゝ關係上内外の事情にも精通さるゝを以て、期せずして輿望の集中する所となり、枉げて就任を諾さるゝこととなつたのであります。殊に本學の進歩發展を劃きんとし學制の改革を斷行せんとするに際し、かゝる俊才逸足の士を得たと云ふ事は、獨り本學の幸福のみではなく本宗教育の一大慶事と云はねばなりません。果然就任早々教育調査會に、第十九議會に或は京都府廳に或は文部省に、着々其の衝に方られて豫定通りの進歩を見、近く來學年度より實行の運に至らんとして居るのであります。

卒業生狀況 第十回卒業生は病氣其の他の事情のため二學年當時より漸々と其の数を減じまして僅かに七名であります。内本科五名選科甲種生二名でありますが、三名は直ちに進んで僧堂に入り、二名は本學に止つて専ら宗乘の研究に従ひ、一名は寺務を補佐し、残り一名は文化促進のために實業界に入つて活動を續けて居ります。

入學生 本學年度の入學生は本科生十六名でありまして、花園中學出身が五名、地方中學出身が十一名であります。尤も第二學期に一名花園中學出身者が入學しましたので花中出身者が計六名となりました。其の他に選科生が九名ありますので一學

年は總數二十六名であります。

下の垂訓 九月十三日管長殿下は親しく本學に望まれて左の垂訓を賜はり高林執事長之を敷演せられました。

垂訓

本學創立以來諸般ノ施設當所ノ企劃ニ副フ是レ本職ノ欣快トスル所ナリ

抑本學創設ノ目的ハ佛祖的傳ノ法門ヲ開示シ 開山大師ノ遺風ト歴代祖師ノ芳躅ヲ攀ヂ内外百科ノ學ヲ修メテ崇高ナル人格ヲ涵養シ時代ノ推移ト思潮ノ傾向トニ順應シテ宗風ノ宣揚ニ任スル底ノ人材ヲ打出スルニ在リ各自宜シク此ノ本旨ヲ體得シテ上下相濟シ彼此相誠シメ闔學一致以テ所期ノ目的ヲ達成センコトヲ努ムベシ。

茲ニ管長ノ職ヲ董スルニ方リ垂訓ス

大正十三年九月十三日

妙心寺派管長 五 葉 愚 溪

學風振興に關する宣言 九月二十八日第十四回紀念日に於て左の宣言を發し大に學風の振興を計り組織の改善を行ひて内容を充實せんことを宣言す。

學風振興ニ關スル宣言

臨濟宗大學ハ佛祖單傳ノ宗旨ヲ奉戴シ内道念ノ涵養ト外宗風ノ對揚トヲ以テ求法研學ノ究竟理想トスル本宗最高ノ學府タルベキ所ナリ

本學ニアル者常ニ此ノ旨ヲ體シテ人格ヲ陶冶シ品性を向上シ

互ニ相驚醒シ其ノ本分ヲ恪守シ寸時モ上求菩提下化衆生ノ念願ヲ忘レス之カ爲ニ須要ナル宗學餘學ノ究明修習ニ怠ラス克ク時代人心ノ類勢ニ鑑ミ學藝偏重ノ弊風ヲ察シ佛祖歷傳ノ眞諦人類至上ノ福祿唯是禪機ノ寶藏ヲ打開シテ自在妙用スルニ外ナラサルコトヲ確信スヘシ

是ノ如キハ本學カ本宗教學ノ中樞タル所以ヲ如實ニ顯示シ其ノ存立ノ意義ヲ内外ニ詮證スルニ足ラン今ヤ本學ハ創立以來既ニ十有餘年其ノ實績ノ稱スヘキモ鮮シ是ニ於テカ此ノ宣言ヲ提起シ大ニ本學學風ノ振興ト時勢適應ノ發展トヲ計リ以テ厥ノ主旨ノ貫徹ヲ期セントス夫レ闔學一致協心戮力宜シク此ノ信念ニ立脚シ此ノ大道ヲ踐修シ以テ此ノ理想ノ達成ニ銳意努力スヘシ

大正十三年九月

臨濟宗 大學

接心會 第一二學期とも學長老師の御住山である府下八幡町圓福寺僧堂において大衆と共に大接心會を嚴修しました。道場を整頓、土地の形勝、誠に申分がありませんので眞に好成績でありました。

構内の整理 舊事務室は終に取り拂はれましたので、さしあたりテニスコートが新調されました。そして殘餘の整地工事も済み圖書館建築の工事も着手するばかりになつて居ります。圖書館當事者は遅くも本年中には建築に取りかゝると云ふて居ります。二十坪四階建の鐵筋コンクリート書庫と同じく二十坪四階建の木造事務閱覽式とが建つことになつて居ります。

降誕會 二月七日は例により本學主催で開山大師の降誕會を催しました。午後一時開會手島主監の開會の辭に次いで勝平大喜老師の印度支那視察旅行談あり引き續き野々村直太郎氏の門外禪と題する有益なる講話あり。餘興として茂山社中の奉納に係る能狂言四番、日活會社關西撮影所寄附の活脚寫眞四種を演し、午後六時半無事終了。頗る盛會でした。(監事室)

ながき傳習に依存して追憶の世界にのみ自己の生活の正當を主張する人々は、世相の變轉と社會の進化とに言ひよなき脅威を感じます。夫の脅威はやがて夫の人々のかたくな保守主義の思想觀念を形成するのではありますまいか。私達若人はかうした追憶の殿堂の燈火にのみ眞理の輝きを認めたくありません。

時間的にも空間的にも何等の制限なき思想の自由の天地に於て、眞理の追求眞の人生の創造を求めて止まないのです。此の眞理の追求こそ向上の一路ではありますまいか。しかるに所謂慨世憂國の志士愛山護法憂宗の師は私達の斯うした眞理追求の歩みを墮落への歩みであり、建設なき破壊への歩みであり、世道人心の頹廢への歩みであるかの如く嘆じます。そして權勢の力は私達の歩みを阻害致します、私達の意氣は動もすれば之れが爲めに動搖を來たさんとします。併し私達は眞の自由は束縛即自由であると體驗する時始めて生ずることを知つてゐます。又大いに伸びんと欲する者は先づ大いに屈まねばならぬこと

を知つてゐます。

私達の歩みは遅々たるものでありますが静かな歩みには力強さが籠つてゐます。私達は冷靜であります、夫の静けさの裡に雷の如きひびきが宿つてゐます。私達は此の力このひびきをより力強く大ならしめんが爲めに駄馬に鞭打つことを忘れません。兎と龜との歩みの差よりも大なる差違が私達の歩みと社會進化の歩みとの間にあるかも知れません、たとへ歩みの速さの隔りはありませうとも至純な眞理への歩みの裡にとほとさを見出し他日見ん眞理の輝を私達の目標として進みます。

私達は此の向上の一路に立てる同行者であります。同行者はいつも餘りに量的にも質的にも貧弱なのをかこちます。吾等の此の寂寞な心の満たされん日を念じつゝ過去一ヶ年次の如き道程を辿りました。

文藝部 ラムベツクは「たゞ静かにしてゐることに於てのみ人はある對象から受ける印象を沈澱させることが出来る」と申してゐます。私達は落葉の音にも神の聲を聴きぬらるゝでせふ。併し夫れは私達の思索によらなければなりません。合理的な思索は叡智によらなければなりません、不立文字教外別傳とは申しましたも月を指す指はなくてはならないことは明白です。佛陀も知を重要視せられたことも明です。殊に宗教の理論的研究の必要なる現代に於て一層智の使命の重大さを感じます。私達若人の旺盛なる智識欲の枯れ盡さない裡に此の培養を怠つてはなりません。併しそれにしても之れに必要なる綱書と夫の閱

覽室との不備は私達の欲求を満してくれません。一日も早く大學圖書館の設立を希望して止みません。昨今本會の圖書部と本學の圖書部との合併を致しましてよりは別に目新しい事業も本部の性質上なしえないのです。併し委員としては種々の妄想を抱いてゐますが實現不可能の悲哀にいつも遭遇してゐます。

講演部——維摩の一黙こそ眞の大雄辯でありませふ、併し私達は故なく黙するの卑怯をしたくはない。黙する前に先づ語り黙して更に語らねばならない。熱血は若人の胸に燃ゆる。

一昨年震災の爲めに中止になつてゐました全國専門學校雄辯大會を復活いたしまして、六月十四日午後一時より晝夜に渡つて山口佛教會館で開催いたしました。參加學校は東は帝都より西は神戸に至る各種専門學校大學を網羅いたしました。實に盛會を極めました。時あたかも彼の横暴極まる米國が排日的移民法案を決議して我日本に對して非人道的なる態度を示し日本に取つて忘る可らざる屈辱を受け九時でありました。爲め、各辯士舌頭火を吐いて米國の非法を難詰いたしました。私達の血潮は躍りました。而し今となつては如何とも致方ありません、只私達は今後の日本の致命的問題なる人口問題移民問題に付いて靜かに考慮するの必要を痛感せざるを得ませんでした。

九月二十二日關西講演聯盟會主催(當番校龍谷大學)大阪中央公會堂にて時局問題講演會を開く。本學より木村理事、辯士として土屋道雄君を派遣す。神經過敏なる當局は未青年者の入場を禁じ警戒を嚴に致してゐました。

十月十九日午後一時より校内雄辯會を開く。當日辯士は鎌田鏡寶龜山眞道谷安麿世良田宗詮藤田精二の諸君で、後ち大東江本部長の講評がありました。

尙本部として木村宗圓君を神戸高商、關西大學、同志社大學雄辯會に派遣し、森南岳君を京都醫大、佛教專門學校に、東海宗源君を高等蠶業學校へ夫々派遣いたしました。尙その他森自光東海譚光山田清和の各君各所に於て大獅子吼をいたされました。

例の如く夫の他帝都方面へ獅子吼に出掛ける必要に迫つてゐましてもキビ團子が思ふやうに出来ない爲めに残念ながら中止してゐます。向上會費の値上げでもして必らず遠征する日の來らんことを希望して止みません。

運動部——久しく講堂新築のため本學唯一の運動機關たるコートを失ひ、夫の技を練ることも又夫の技を闘はずことも不可能の状態にありましたが本學年の初め本山當局決議の結果漸く實現の曙光を見出し、九月二十二日より漸やく工事に着手し十月十二日竣工するを得ました。各選手此に自由に夫の技を磨くを得るに至つた。秋晴れの日二年有半にして輕快なるホールの響きを聞きました。十月十七日コート竣工記念庭球大會を開催す、朝來晴天白自眞の庭球日和、來會するもの三十有餘校に達し非常なる盛會を見たり。コート新設後練習日淺く夫の結果如何と懇念せしも本學の猛者よく敵を衝き好成績を収めて午後四時閉會。

十月二十五日本學期最初の對校マツチを智山大學を迎へて開催す、本學の老將組足立高木兩兄よく戦ひ敵を一掃して大勝す。十月三十一日東京豊山大學より挑戦し來るの電あり選手一同技を練りて之れを待つ。然るに突然中止の電あり。止むなく花園俱樂部と對戦す。最初より三組優待し不戦組二組を残して大勝す。

十一月八日京都藥專と本學コートに於て闘ひ、本學優待二組を以て大勢決せるも日没に迫り最後の雌雄を決せず。ドロンドロムに終る。

十一月二十二日名に誇る北野双陵俱樂部の挑戦に應じ北野コートにて大いに戦ふ。我よく敵を一蹴して心膽を寒からしめ大勝に歸す。

十一月二十九日校内卓球大會を第二教室にて開く。大正十四年新學期からは新學制に改正せられます。私達の臨大気分にも大きな變化がありません。愛宕の峰には未だ雪が積つてゐます。あの雪が融け、春の水の流れとなつて渡月橋の邊りに流れる日も程近い。新學制に依つて更に一段と向上の道を辿りませふ。會友諸兄の御健康を念じつゝ。(向上會より谷生)

○ 思想の流に於て「東洋的なるもの」が「泰西的なるもの」の先導となるのは甚だ稀であります。夫にも拘らずオクシデントなものゝ開發に伴ふて埋もれたオーリエントが剝りだされ、彼の深化につれて此の深みがたゞへられ、かくてオーリエントがた

はオクシデントの頂きへ頂きへと高められてゆくのは何といふ皮肉でありませう。いみじき寶庫を擁して開くべき術をしらば開いて語るべき言葉をもたぬのが東洋哲學殊に佛教々學の現状でもありませんか。かうした缺陷に留意してきた様に思はれる本學がいま更に信念基調、宗乘中心の旗幟を確立しやうとするのは私達の悦びであります。そしてこの悦ばしい時に尙一層學究としての私達の目標を明確にし本宗學の不備を補ふ様な一つの鼓舞もがなと思はずにはゐられません。本誌の標題が改められたのは主としてかうした念願からなのであります。ことに宗乘專攻科の實現に由て本誌がゆくゆく禪學研究界の要地を占め得る確信を抱くことができるならば一層の悦びであります。之に對しては餘りかたくなりすぎること、範圍が限られることなどの批難もありませう。私一個としても私達の間にか文藝方面の發表機關が實現されることを祈念して已みません。然し乍ら學究としての私達の重心が宗乘にあるべきこととして私達が從來禪が時代思潮に對してどういふ意義をもつか、文化學的體系に於てもしくは對してどんな位置乃至關係を占めるか、一言にすれば禪の學的基礎付けといふ様な方面を閉却してゐたことは餘りに明かか事實であり、殊に學と信とのけじめがともするとみだされ様とし、教學の新しい研究方法の要求せられる今日一層反省を促されます。この意味に於て様々の批難を思ひ乍らも時機尙早ともいはれませうが先づ此方面から基礎を固めたいと願ふのであります。原稿募集當初はまだ之が確定してゐ

なかつたので困難なものになつて了ひました。尙他に教授、會員諸君にも三四お願してあつたのですが不慮の事件や御病氣のため遂にかうした貧弱なものしか見ることができません。

會友諸氏に對する本誌の配布方法に就て折々諸方から御忠告を頂くのですが今度本會の決議に由て會友全部から相當の會費を前納して頂いて永久に御送りすることにきめました、詳細は追て發表しやうと思つてゐます。本部は今學年から文藝部より獨立することになりました。

忙しい時間を偷んで御執筆下さつた方々に心から感謝いたします。夕方から吹雪がして寒くてなりません。會友諸兄の御健在を祈ります。(編輯室より 孩生)。

編輯長 久松 眞一
編輯員 森 南 岳

徳永 圓 應
村田 宜 道
市川 白 弦

會員名簿

特別會員

京都府綴喜郡八幡町圓福寺僧堂
 京都市北野衣笠園三一ノ二
 愛媛縣東宇和郡溪筋村長谷寺
 岐阜縣可兒郡春里村壺河大龍寺
 岐阜縣加茂郡富岡村東香寺
 京都市上京區小川通一一條上ル
 京都市上京區淨土寺町三丁目
 京都市下鴨泉川町六
 京都市堀川頭寺ノ内興聖寺
 妙心寺山内春光院内
 京都市聖護院西町
 京都市下鴨西林町一一
 京都市八條諏訪開町
 京都市外花園驛前
 京都市外花園木辻
 京都市聖護院洛陽館内
 京都市上立賣通烏丸東入ル上ル西邨方
 岐阜縣山形郡梅原村普救寺
 妙心寺山内長興院

神月徹宗
 手島文若
 神間政進
 大川泰山
 渡邊拙堂
 寺西亮吉
 松本文三郎
 大屋徳城
 日種讓山
 久松眞一
 小笠原秀實
 野上俊夫
 湯次了榮
 大西太郎
 奥江順徳
 高坂正顯
 福島俊翁
 伊藤古鑑
 田中東瑞

京都市五辻通七本松
 京都市八條諏訪開町
 京都市下京區錦猪熊町專徳寺
 京都市上京區平野大蔵町一ノ一
 京都市下鴨知四明寮内
 山梨縣甲斐惠林寺
 靜岡縣興津清見寺
 鎌倉圓覺寺
 岡山縣上房郡高梁町賴久寺
 東北帝國大學
 靜岡縣寺町興禪寺
 秋田縣由利郡本莊町超光寺
 香川縣高松市四番町慈恩寺
 大分縣大野郡野津市村普現寺
 靜岡縣沼津町東光寺
 兵庫縣蘆屋
 兵庫縣朝來郡興布寺村玉林寺
 京都府福知山町

舊特別會員

海野信行
 玉置賴晃
 宇野圓空
 島崎得道
 羽溪了諦
 故圓山元魯
 故坂上宗詮
 故釋宗演
 細川愚溪
 千葉胤成
 山本完道
 六平巧政
 吉瀬元厚
 原圓應
 天舩接三
 谷本富
 奥村圓應
 安部晴之助
 故石神徳門

和歌山縣東牟婁郡田原村檀那寺

姫路市姫路中學校

東京商科大学

京都市東山南禪寺内南禪院

愛媛縣周桑郡多賀村長福寺

山縣高等學校

岐阜縣山縣郡伊自良村東光寺

備後國沼隈郡鞆町安國寺

名古屋市南區笠寺町東光院

静岡縣立濱松中學校

大阪府堺市南宗寺

京都市佛光寺通高倉西入常行寺

大阪市外平野大念佛寺

新義真言宗智山派千手院

名古屋市熱田中瀬町大法寺

静岡縣安倍郡美和村結成寺

兵庫縣赤穂郡赤穂町隨鸕寺

島根縣八東郡出雲鄉村

京都市下京區不問門通七條上ル

妙心寺山内春光院

妙心寺山内大心院

静岡縣安倍郡不二見村東向寺

京都市外花園村谷口仙壽院

兵庫縣多可郡杉谷村靈門寺

高木大猷

横田宗直

高田保馬

原真乘

河野鐵岫

木宮泰彦

小倉宏船

山本全良

山村政快

八木實道

梅山玄秀

楠惠澄

山上戒全

野口實亮

鷲尾祖鳳

龜谷弘岳

江西藝州

猪股佛讓

藤澤乙夫

川上孤山

加藤泰道

故齋藤龍戒

池上體澄

關弘道

兵庫縣朝來郡梁瀨村慈照寺

愛知縣中島郡大和村妙興寺

栃木縣足利郡三和村養源寺

京都市東山安井神社南側小松町

京都市松原通大宮西入長圓寺

大分縣別府町崇福寺

京都市鼻山門前

岐阜縣可兒郡豐岡町虎溪山僧堂

宮城縣黑川郡大谷村東光寺

和歌山高等商業學校内

福島縣伊達郡大久保村大桂寺

愛知縣八名郡下川村正圓寺

會友

大正四年卒業生

兵庫縣武庫郡須磨町妙法寺村菘ノ寺

愛媛縣伊豫郡南伊豫村華嚴寺

廣島縣双三郡吉舍村西光寺

愛知縣中島郡稻澤町禪源寺

宮城縣遠田郡涌谷町見龍寺

島根縣簸川郡國富村三玄寺

静岡縣志太郡藤枝村慶全寺

京都市葛野郡花園村雜華院

大正五年卒業生

三重縣度會郡種原村大通寺

木村祖要

松岡寬慶

淺井紹德

二十二鐵鎧

日下大疑

篠田海州

上村觀光

加藤至道

佐藤宗岳

橋寺太郎

土岐明道

金仙宗諱

岩田漂州

西谷俊應

和知觀宗

川松翠巖

山路清一

安住篤堂

水野豊州

澁谷那州

(住職)

(正眼僧堂) 西野禪規

岐阜縣山縣郡岩野田村靈松院
 福島縣伊達郡大久保村大梓寺
 岩手縣膽澤郡水澤村大安寺
 京都府葛野郡花園村大法院
 三重縣河藝郡神戸町龍光寺
 愛媛縣北宇和郡丸穗村大隆寺
 大正六年卒業生
 岐阜縣大垣市藤江町禪桂寺
 兵庫縣武庫郡山田藍郷大中寺
 靜岡縣安倍郡安東村臨濟寺
 三重縣宇治山田市岩淵町高源寺
 廣島縣山縣郡戸河内村圓光寺
 岐阜縣可兒郡中村愚溪寺
 岐阜縣岐阜市盛屋町覺林寺
 島根縣那賀郡大内村長福寺
 和歌山縣西牟婁郡和深村上品寺
 山梨縣南都留郡船津村圓通寺
 岡山縣田郡津山町
 京都府天田郡三岳村瑞應寺
 大正七年卒業生
 靜岡縣引佐郡氣賀町正明寺
 大分縣東國東郡富來村高弘寺
 岐阜縣加茂郡加治田村龍福寺
 三重縣志摩郡波切村仙遊寺

(福山學院) 東海 信道
 (在 寺) 土岐 明道
 (在 寺) 千葉 靜圓
 (在 職) 坂井 田宗珣
 (在 寺) 衣斐 命讓
 (在 寺) 兵頭 惠聰
 (在 職) 岩田 宜純
 (在 職) 石田 靜溪
 (在 米) 長谷川 秀山
 (在 職) 西谷 眞讓
 (花園中學) 岡本 義正
 鷲嶺 隆堂
 (在 職) 加藤 紹誠
 (死 亡) 笠松 大定
 (在 職) 龜田 萬耕
 (在 職) 田村 象山
 (在 職) 牧野 寬嶺
 (在 職) 平手 泰岩
 (在 寺) 林 岱雲
 (在 寺) 小野 相兼
 (死 亡) 河合 全誠
 (在 職) 金田 仁應

靜岡縣濱名郡中瀬村普賢寺
 大分縣北海郡臼杵町月桂寺
 岐阜縣不破郡宇留生村圓成寺
 福岡縣三井郡合川村福聚寺
 靜岡縣濱名郡篠原村長福寺
 宮城縣刈田郡白石村傑山寺
 福岡縣浮羽郡浮羽村大生寺
 京都府與謝郡吉津村證西寺
 大分縣速見郡杵築町安住寺
 大分縣大分郡挾間村龍祥寺
 廣島縣沼隈郡千年村寶大寺
 大正八年卒業生
 長野縣下伊那郡飯田町大雄寺
 愛知縣愛知郡中村凌雲寺
 香川縣香川郡梶林村雲源寺
 滋賀縣阪田郡六莊村良崎寺
 大阪市北區高垣町正法寺
 島根縣簸川郡伊波職村吉祥寺
 愛知縣丹羽郡大口村妙德寺
 山梨縣南都留郡鳴澤村通玄寺
 愛媛縣松山市末廣町正宗寺
 岐阜縣稻葉郡加納町光國寺
 宇都宮市今泉町興禪寺
 大正九年卒業生

(在 寺) 吉田 俊熾
 (在 寺) 野中 諦宗
 (在 東京) 野村 玄恒
 (在 寺) 松村 要道
 (在 寺) 近藤 義晴
 (在 職) 麻生 寬堂
 (在 職) 芝原 行戒
 (相國僧堂) 丹羽 惠雄
 (正眼僧堂) 金石 禪聰
 (在 職) 挾間 千壽
 (在 職) 鹿野 月皎
 (正眼僧堂) 石川 良孝
 (在 米) 小笠原 紹德
 (在 寺) 片桐 義豐
 (在 花園) 後藤 義豐
 (相國僧堂) 笹 桂林
 (在 職) 佐藤 梅溪
 (相國僧堂) 水野 萬保
 (在 寺) 柴原 長勳
 (滿州鎮江寺) 釋 大賢
 (在大阪) 樋口 文勝
 (在 寺) 石川 俊雄

三重縣度會郡南海村磯浦龍泉院
兵庫縣朝來郡山口村善見院
姫路市姫路中學内

(德源僧堂) 岩田祖泰
(在寺) 大野孝理

岐阜縣山縣郡岩野田村大龍寺

(在青島) 松本文秀

岐阜縣山縣郡北山村大雲寺

(建長學林) 高木清宗

三重縣志摩郡波切村桂昌寺

(住職) 松山大玄

靜岡縣引佐郡奥山村方廣寺

(松江中學) 櫻内文益

島根縣八東郡朝酌村禪定寺

(住職) 深具文郁

岡山縣若田郡本源寺

(死) 廣戸宗眞

岐阜縣稻葉郡鏡島村乙津寺

(德源僧堂) 梅園義勇

大正十年卒業生

愛媛縣周桑郡古井村正徳寺

(在寺) 伊藤泰道

愛知縣愛知郡東山鍋屋上野永弘院

(在寺) 伊藤宗忠

名古屋市中區新尾頭町妙安寺

(建仁僧堂) 石黒仁山

靜岡縣寺町四丁目攝取寺

(在寺) 長谷川與

岐阜縣武儀郡西武藝村太原寺

(教務本所) 東海保山

山口縣大島郡蒲野村松尾寺

(在米) 沖村宗逸

愛知縣丹羽郡犬山町瑞泉寺

(建仁僧堂) 鷲津董因

朝鮮平北寧邊郡妙香山普賢寺

(在京城) 金法龍

山梨縣中巨摩郡龍王村玄廣寺

(在職) 河野義雄

岐阜縣大岐郡下石村常福寺

(在寺) 中島大信

愛知縣深美郡二川町東觀音寺

(在寺) 淺井宗眞

靜岡市片羽町西藏寺

(住職) 淺野禪喜

愛媛縣西宇和郡八幡濱萬松寺

(在寺) 南野亮圓

靜岡縣濱名郡入野村陽観寺

(在寺) 宮田宗雄

京都府與謝郡市場村養源寺

(京大) 紫野恭堂

京都府何鹿郡綾部町隆興寺

(妙心僧堂) 白石洪淵

岐阜縣加茂郡加治田村龍福寺

(死) 平松光演

大正十一年卒業生

愛知縣丹羽郡犬山町瑞泉寺

(南禪僧堂) 高野董鑑

長野縣下伊那郡千代村法全寺

(虎溪僧堂) 竹村惠照

仙臺市通町東昌寺

(住職) 國安泰嶺

岡山縣小橋町國清寺

(建仁僧堂) 前川大道

愛知縣深美郡福江町隆涼寺

(在寺) 小松全信

島根縣大原郡幡屋村大用寺

(天龍僧堂) 永瀬秀法

山口縣玖珂郡伊陸村高山寺

(天龍僧堂) 明尾完忍

兵庫縣多可郡黒田在村福聚寺

(正眼僧堂) 宮崎憲道

京都府天田郡雲原村龍雲寺

(南禪僧堂) 梶見正道

京都府何鹿郡山家村梅林寺

(建仁僧堂) 田中實應

京都府葛野郡衣笠村等持院

(在京都) 蒔田承範

大正十二年卒業生

愛知縣丹羽郡扶桑村龍泉寺

(在京都) 後藤宗純

靜岡市寺町四丁目少林寺

(南禪僧堂) 伊藤義道

大阪府南河内郡石川村太念寺

(在寺) 西田義光

京都府天田郡中夜久野東源寺

(南禪僧堂) 西宗久

朝鮮平北寧邊郡北蕪峴面普賢寺

(德源僧堂) 金承法

名古屋市中區矢場町政秀寺

(德源僧堂) 吉田月仙

京都市佛光寺通高倉西入當行寺

愛知縣東加茂郡旭村三玄寺

山形縣七日町大龍寺

京都府船井郡富本村阿彌陀寺

廣島縣豐田郡高坂村佛通寺

大正十三年卒業生

三重縣度會郡中島村片山寺

大坂市藤江禪桂寺

香川縣高松市三番町法泉寺

兵庫縣養父郡大藏村法泉寺

山口縣玖珂郡祖生村長實寺

佐賀縣杵島村武雄廣福寺

京都市上京區金閣寺

正會員

第四年級

岐阜縣加茂郡和知村華藏寺

岐阜縣武儀郡南武藝村專利寺

仙臺市通町光明寺

名古屋市新勢町善昌寺

神戸市東尻池町寶滿寺

靜岡縣引佐郡氣賀町金地院

鳥根縣鏡川郡莊原村吉成寺

岡山縣笠岡郡富村寶泉寺

愛知縣渥美郡二川町東觀音寺

(在寺) 楠專岳

(虎溪僧堂) 村田貫道

(京大) 松田奉行

(祥福僧堂) 釋泰堂

服部宜啓

(在寺) 一野宗貫

林古鑑

(在花園) 西川宗之

(專攻科) 足立禪悅

(天龍僧堂) 廣岡仁

(聖福僧堂) 安藤元正

佐藤承俊

市川白絃

東海宗源

大内宗圓

鎌田錦道

龜山眞寶

山田素圭

和田守柏宗

森自光

木村宗圓

山梨縣北巨摩郡熱見町淨光寺

京都市福地町南陽院

京都市何鹿郡東八田村雲源寺

靜岡縣駿東郡靜浦村桂月寺

長崎縣北松浦郡田平村圓通寺

福岡縣御供所町聖福寺

第三年級

京都府與謝郡吉津村智恩寺

岐阜縣武儀郡西武藝村吉祥寺

和歌山市島崎町禪林寺

靜岡縣安倍郡安東村臨濟寺

熊本縣球磨郡大村觀音寺

京都府葛野郡花園村龍安寺

岐阜縣山縣郡櫻尾村廣福寺

愛知縣丹羽郡犬山町德授寺

名古屋市東區千種町元古井芳球寺

岐阜縣加茂郡上來田村龍潭寺

熊本縣球磨郡木上村長安寺

岐阜縣土岐郡稻津村興德寺

大坂市東區西高津町寺町江國寺 (入營)

長野縣上伊那郡飯島村西岸寺

東京市西多摩郡五日市町開光院

京都市上京區衣笠等持院

靜岡縣田方郡熱海町溫泉寺

(休學) 鈴木實一

森南岳

梅垣謙讓

秋山嶺三

大石素琢

白水敬山

伊藤秀峰

東海謙光

岸田禪昭

福富洪國

德水圓應

大崎弘淵

大野宗純

織田峻嶽

谷宏巖

高木龍夫

土屋道雄

佐藤宗源

柴田紫山

平野祐山

世良田薰

岩佐承温

小林珠山

三重縣阿山郡上野村山溪寺
山口縣大島郡蒲野村松尾寺

第二年級

秋田縣南秋田郡土崎港海禪寺
岐阜縣武儀郡美濃町清泰寺
京都府葛野郡花園村長慶院
岐阜縣武儀郡上麻生村真光寺
岐阜縣不破郡宇留生村圓成寺
靜岡縣安倍郡不二見村梅蔭寺
栃木縣足利市大町善徳寺
名古屋市熱田町海國寺
兵庫縣朝來郡與布土村玉林寺
岩手縣稗貫郡花卷町長久寺
京都府南桑田郡稗田野龍潭寺
京都府葛野郡嵯峨町鹿王院
兵庫縣水上郡上久下村惠日寺
兵庫縣水上郡神樂村高源寺
福岡市御供所町順心院
福岡縣企救郡足立村聖應寺
京物府葛野郡松尾村淨生寺
靜岡縣引佐郡氣賀町金地院
大阪府南河內郡長野町極樂寺
長野縣西筑摩郡駒ヶ根村臨川寺

森 玄 逸

藤 本 宗 實

藤 田 溪 山

近 藤 玄 徹

山 川 貫 三

平 山 穆 洲

笠 目 宗 篤

川 口 蘇 雄

鎌 田 禪 商

辻 本 秀 義

奥 村 秀 法

佐 藤 元 勝

竹 内 魯 道

吹 川 玄 薩

三 宅 庸 宗

加 藤 興 道

足 立 宗 詮

玉 井 虎 雄

榑 原 德 草

村 田 宜 道

山 川 清 和

見 浦 寧

第一年級

臺灣臺南市圓山町臨濟寺
山梨縣西山梨郡里垣村東光寺
島根縣八束郡法吉村天倫寺
宮城縣宮城郡藍蓋町東岡寺
京都府葛野郡嵯峨町三香院
報都府葛野郡花園村天球院
佐賀縣小城郡芦川村報恩寺
靜岡縣磐田郡中泉町泉藏寺
和歌山縣東牟婁郡新宮町清涼寺
和歌山縣西牟婁郡江住村正福寺
愛媛縣周桑郡田野村願成寺
大分縣速見郡北由布村佛山寺
京都府葛野郡花園村雜華院
長野縣西筑摩郡大桑村定勝寺
滋賀縣文山郡青波村龍潭寺
長野縣西筑摩郡福島町久昌寺
岐阜縣吉城郡上寶村本覺寺
靜岡縣安倍郡安東村臨濟寺
大阪府東區西高津中寺町法雲寺
兵庫縣武庫郡本山村寶積寺
大阪府南河內郡川西村龍雲寺
兵庫縣神戶市湊町松隣寺

稻 葉 明 堂

岩 田 周 興

伊 藤 太 嶽

千 坂 秀 峰

渡 邊 承 德

久 下 亮

菰 田 增 雄

安 藤 義 鑑

佐 藤 謙 一

平 松 勝 温

川 上 蓬 舟

小 寺 宗 博

丹 羽 義 雄

林 文 道

北 川 宗 一

伊 藤 義 雄

石 井 眞 玄

松 山 宗 一

澤 田 誠 道

鹿 嶽 光 雄

隆 琦 泰 親

松 田 祐 嶺